

明るく！ 元気に！ さわやかに！

調布市議会議員

川畑英樹

市民政治
チャレンジ
レポートvol.25



震災を受け、調布市長へ緊急申し入れを行いました

- 3月11日午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東日本大震災が発生しました。震災で亡くなられた方、被災された皆様とご家族に対し、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。被災された方々へのサポートに力を尽くす決意です。
- 調布市でも、震度5弱の揺れにより、市役所内などが一部被害を受けたほか、計画停電により市民生活にも影響が出ています。
- 今回の大規模災害を受け、調布市議会から調布市長に対し、以下の13項目にわたって緊急申し入れを行いました。
- 被災者救援のため、国、都及び県警機関と連携し総力をあげた支援を行うこと
 - 被災者、避難者の受け入れを行うこと
 - 緊急防災支援物資配送に調布飛行場の活用を図ること
 - 市内放射線レベルの測定の実施と公表とあわせて、防被ばく対策を市民に周知すること
 - 迅速で的確な情報提供に努めること
 - 計画停電で市民生活の支障をきたさないよう、万全の対策を取ること
 - 計画停電時にもめない営業ができない中小企業に対し、支援を行うこと
 - 夜間の計画停電時における安全安心パトロールをより一層強化すること
 - 京王線の運休等による帰宅困難者対策について、万全の体制を整えること
 - 節電に努めるとともに、ガンリン・食料・日用品買占め抑制を呼びかけること
 - 被災自治体の要請に応じ、市民ボランティア・職員を派遣できるよう積極対応すること
 - 市内の被害状況の全面的把握と、公共施設の安全確認を行い、周知徹底すること
 - 混乱に乗じた義捐金詐欺や略奪行為について、万全の防止策を講じること
- また、内閣総理大臣宛に緊急意見書、東京電力に対して改善要望を行いました。

義援集会を開催しました

3月20日、国領アクロス三階ホールにおいて、「東日本大震災復興支援義援集会」を開催しました。これは、当日予定していた恒例の「落語でサクサク」に代え、急遽実施したものです。

当初の予定よりも経費を切り詰め、出席くださった皆さまからの義援金と合わせて78,950円を「民主党募金口座」に振り込ませていただきました。全額が被災支援活動に届けられます。



調布市議会では、全議員が歳費から支払っている「議員会費」の中から60万円を、3月28日、全国市議会議長会へ義援金として送りました。

募金活動にご協力を

私たち一人ひとりには微力ですが、しかし無力ではありません。是非とも、募金活動にご協力いただきますようお願いいたします。民主党が預かりした全額を、被災自治体にお届けします（振込手数料は振込人払いとなります）。

◆郵便振替の場合

「民主党募金口座」
(記号) 00110-6 (記号) 65328

◆銀行振込の場合 (りそな銀行衆議院支店・普通預金)

「民主党募金口座」
(店番) 328 (口座番号) 7815354

期日前投票のススメ

投票日当日に仕事や旅行、レジャー、買い物などで投票に行けない方は、期日前投票ができます。当日行けない理由は、用紙の所定欄を○で囲むなど簡単。印鑑は不要です。

調布市議会議員選挙の期日前投票が行えるのは、

◆調布市役所6階第6会議室

4月18日(月)～23日(土)
午前8時30分～午後8時

◆児童館ホール(神大出張所隣)

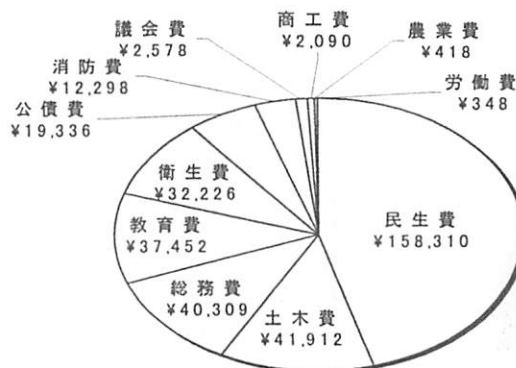
◆アクロス2階会場(国領駅隣)

4月18日(月)～23日(土)
午前9時～午後8時 です。

貴重な1票を無駄にしないために、期日前投票を利用しましょう。

市民一人あたりの予算

今年度予算総額771.5億円を人口で割ると、市民一人あたりの予算額は348,394円です。目的別では次のとおりです。



2011年度予算が
決まりました

未来かがやく調布を創る！

川畑英樹が取り組む、6つの基本政策

防災・防犯～安全・安心に暮らせるまち

- ◎京王線地上部に、防災機能付き・避難可能な公園を
- ◎犯罪抑止のため青色回転灯装着車両を増車し、白黒のツートンカラーに
- ◎犯罪及び交通事故多発地区のわかる、危険箇所確認マップの早期作成を

犯罪認知件数2,707件・空き巣を含む侵入窃盗139件・交通人身事故827件

保育・子育て支援～安心して子育てできるまち

- ◎待機児童ゼロの保育行政・家庭福祉員(保育ママ)の拡充を
- ◎延長保育・一時預かり保育・病後児保育のさらなる促進を
- ◎乳幼児を持つすべての家庭に、子育て相談員制度の新設を

調布市の保育園に入りたいくても入れない待機児童は249名に上ります。

バリアフリー・まちづくり～みんなに優しく元気なまち

- ◎段差の少ない、高齢者・障害者に優しいバリアフリーを実現したまちづくりを
- ◎「映画のまち」を活かした観光振興と元気なまちづくりを
- ◎交通不便地区にミニバス運行の実現を

市民ニーズ調査では「バリアフリー整備状況が十分ではない」と感じる方が48.5%に上ります。

介護支援～安心して齢を重ねられるまち

- ◎特別養護老人ホームを増設し、入所待機者の解消を
- ◎在宅介護サービスの充実、グループホームの整備を
- ◎自宅で介護する家族への支援、こころのケア充実を

調布市の高齢者数は約42,000人、特別養護老人ホームの入居待ちは約500人です。

環境・ゴミ対策～環境を大切にできるまち

- ◎放置自転車ゼロをめざし、立体駐輪場・地下駐輪場の新設を
- ◎公共施設・小中学校への太陽光発電システム設置の促進を
- ◎生ゴミ処理機の購入助成の増額を

放置自転車の撤去台数は三多摩地区で3番目に多く、16,891台に上りました。

教育～楽しく学べるまち

- ◎小中学校の校庭芝生化の促進を
- ◎団塊の世代・お年寄りの能力を借りたコミュニティースクールの創設を
- ◎いじめや教育格差の解消のための制度の充実を

小学校20校のうち、校庭が一部でも芝生化されているのは8校、中学校は0校です。

私は市議会議員としての8年間、一貫して「バリアフリー」を政策の中心に掲げてきました。

未曾有の大震災で被災された方々の不自由と疎外感を自分のものとして受け止めることこそ、あらゆるバリアのないまちづくりの原点だと思います。

私はこの思いを胸に、「誰にとっても優しい、人に温かいまちづくり」に取り組めます。



プロフィール

- 1957年 熊本県生まれ。高校卒業後上京。会社員を経て、俳優に
- 1994年 母、62歳で脳内出血のため左半身不随に。現在も車椅子生活
- 1996年 衆議院議員菅直人事務所で、地元担当・随行秘書に
- 1997年 父、母を老々介護の末、77歳で肺がんのため世界
- 2003年 調布市議会議員選挙初当選
- 2010年 2期目を経て、2011年統一地方選挙・民主党公認決定